平成 28 年度

地球環境「自然学」講座

第　6　回

テーマ

離島の暮らしを世界に紹介する

講師

小さな世界学校　代表

小関　哲　先生

平成 28 年　6 月25日（土）

NPO法人・シニア自然大学校

小関　哲　略歴

1979 生、長崎県平戸島に育つ。16 歳の夏高校を退学し、経団連奨学金を受けて国際学校 United World College へ留学、Atlantic College（英国ウェールズ州）卒業。帰国後は京都大学法学部にて国際関係論等を学ぶ傍ら、「美しき日本の残像」著者 アレックス・カー氏の主宰する非営利団体 Chiiori Project にて 日本の自然文化を外国人へ紹介する仕事に出会う。

2004 年カナダにて野外活動指導者のトレーニングを受け帰郷・独立。以降「ローカル体験」と「国際体験」をミックスした「旅行型教育プログラム」の企画を主軸として活動。「世界を『深く』理解するリテラシーを備えたグローバル人材層」、「グローバルな視点で『ローカルな現実』を運営・生活する力と実体を持つローカルリーダー層」を育む良き枠組について模索し続けている。

1979（誕生）　長崎県平戸・松浦地方出身の両親の下、生まれる。機械技術者だった父の赴任先テキサス州ヒューストンにて幼児期を過ごす。幼稚園～中学校を平戸島にて育つ

1996（16 歳）佐世保北高校を退学、United World College 第 25 代日本人派遣奨学生として Atlantic College（英国ウェールズ州）へ進学。12 世紀古城をキャンパスとする国際学校にて全世界より集う学友と親交を深め、各国を歩く

1999（19 歳）京都大学法学部へ入学、政治史・国際関係論・ナショナリズム研究等を学ぶ キャンプ道具を背に各地の自然に入り、旅・アウトドアの経験を重ねる

2002（22 歳）「美しき日本の残像」著者アレックス・カー氏の主宰する非営利団体にて活動 訪日外国人団体に日本の自然・文化を紹介する体験型プログラム企画を担当

2004（24 歳）カナダにて野外活動指導者のトレーニングを受け、フリーランスとして独立・帰郷

2007（27 歳）アイゼンハワー元大統領創設の教育団体「ピープルトゥピープル」による米高校生約 400 名の修学旅行を JTB 社と共に誘致・運営。全世界 27,294 名が参加した 48 コース中「平戸・小値賀・長崎ルート」が世界 No.1 の評価を獲得し、表彰される

2008（28 歳）前年の評価を受けピープルトゥピープル「平戸・小値賀・長崎ルート」が拡充。この年 2 年連続の世界 No.1 評価を獲得（以降プログラムの順位発表は中止となる）

2011（31 歳）東日本大震災の発生により、海外からの訪日プログラムは全て中断となる（外国人受入ノウハウを活かした被災地支援の方法を模索するが、結果はまだ出せていない）。

2014（34 歳）海外からの訪日プログラムが徐々に再開。外国人受入ノウハウの他団体への共有、「『英語力』に留まらない国際コミュニケーション能力」についての意識を始める。

2015（35 歳）「バイリンガル講座」開講。福岡を第二拠点に日本人向けプログラムの提供を開始

● **ユナイテッド・ワールド・カレッジ / United World College （ 略：UWC ）**

全世界から選抜される若者に 2 年間の国際人教育を無償で提供する国際教育機関。先代の名誉会長はネルソン・マンデラ元大統領、日本協会（日本経団連内）の設立は UWC の理念に賛同した㈱ソニーの創立者盛田昭夫氏らの貢献による。次代の国際社会リーダー間に真の友情を育む場として 1962 年に設立され、世界 14 校に展開。日本からは毎年 10 名前後の若者が派遣されている。

日本人卒業生 441 名の主な進学先は国内では京都・慶應・東京大学、海外ではロンドン・オックスブリッジ・ハーバード大学など（進学者数順、2011 年）。世界 3 万人を超える UWC 卒業生ネットワークを活かし、世界を舞台に活躍する。著名な日本人卒業生として 08 年夏にスペースシャトルへ搭乗した宇宙飛行士の星出彰彦氏、30 代の若さで日本初の全寮制インターナショナルスクール（ISAK）を 2014 年軽井沢に開校した元国連職員の小林りん氏ほか、多くの方々が日本を代表する国際人として各界で活躍中。

http://www.uwc.org/ （英語：UWC 本部・ロンドン）
http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/index.html （日本語：UWC 日本協会・日本経団連内）

● **Alex Kerr / アレックス・カー 氏**

東洋文化研究者、「美しき日本の残像（93 年新潮文芸賞）」著者。知日派外国人として知られ近年は政財界による講演依頼等も多い（06 年小泉首相と懇談）。司馬遼太郎氏や白州正子氏ら日本を代表する文化人とも交流を重ね、日本の自然文化保護のための発言を重ねてきた。07 年 TBS 系「情熱大陸」番組内において小値賀の島々を訪れ、その取組を『現代日本の奇跡』と絶賛した。
www.alex-kerr.com/html/media_about_alex__j_.html （日本語記事・特集など）
www.chiiori.org （四国祖谷地方の古民家を拠点とした、国際的な地域再生プロジェクト）

● **長崎県 平戸島・小値賀（おぢか）島**

平戸大橋により対岸と結ばれ、日本本土で最も西にある自治体が人口約 3 万 5 千人の平戸市。かつては松浦家の城下町として栄え、戦国時代から江戸時代初期にかけてヨーロッパ・アジアの多様な人々が行き交う日本最大級の国際貿易拠点だった。司馬遼太郎最後の小説「韃靼疾風録」は江戸初期に平戸藩が幕府の目を潜り大陸に放った武士（スパイ）を主人公とした物語であり、「世界史」の文脈で描かれる独立小国家平戸の姿は新鮮である。その後小藩として明治期を迎え、都市化による環境の激変を免れた平戸の町には往時を偲ばせる遺構が今も数多く息づいている。

その西更に 30 キロの海上にある 17 の島々からなる自治体が、人口約 3 千人の小値賀町である。小値賀は平戸松浦家が鎌倉以前に本拠とした島であり、小島ながら高い文化と経済水準を有していた。「平成の大合併」以降も独立を貫き、住民と役場が一体となり展開する様々な活動は数々の成功を生みつつある。開放的な島の人々に惹かれ繰り返し島を訪れる「小値賀ファン」は増え続けており、若者や文化人など国内外から多くの人々が集い始めている。 www.ojikajima.jp/

地球環境『自然学』講演
2016年6月25日（於 大阪市）

21世紀の「人間と自然」を考える
ー長崎県平戸島における 若者たちの12年の取組から ー

ナガサキアイランズスクール（小さな世界学校）
代表 小関 哲

1. はじめに：今日自分がここに立っている理由について

- 2011年夏、田中先生との出会い（2003 年の伏線）。今日はよろしくお願いします。
- 自然の専門家でない自分は今日、何を語るべきなのか。かつて国際政治学の学生であり、現在も「国と国を争わせないために何をすべきか」というテーマの下仕事をしている。かつて戦火を交えた国の若者同士が心を開いて語り合うための場と機会を、「故郷の美しい自然」「自然と共に暮らす心優しき人々」の力を借りながら行っている。
- 1979年（昭和54年）生れの36歳。「21世紀の日本人（という生き物）の現在位置」について語ることはできるかもしれない。その他、若い仲間たちの取組も紹介してみたい。

2. 活動紹介：

- 長崎の離島を舞台とした国内外からの「スタディツアー」の紹介（動画・写真）
- 背景にあるライフスタイルとこれまでの歩み（高校中退～留学～京大卒業後の放浪の旅）
- 仲間たちの活動・取組について（全国にファンを持つ「海辺の塩炊き職人」、欧州留学後平戸に U ターンした「イノシシ猟師兼ジビエ料理人」、かつて米国でエンジニアとして働いていた「国際交流団体代表 兼 自然・歴史ライター」ほか）

3. 考察：何が起きているのか（平戸という土地は何を象徴しているのか）

- 「大自然に抱かれ」て悠久の営みを続けてきた人類が、「環境を激変させる能力」を突如手にしてから100～200 年。高度成長の波と価値観が全国に及び、若者達は都会を目指して故郷を離れ、「ふた世代前の日本人の暮らし」が「非日常」となり始めてから約50年。
- 一方現代の若者たちは「自然」「田舎」というものに対し「忙しい日常を離れたレジャー」という視点ではなく、「自然の力を借りて現代社会を変える」「その『最先端のアプローチ』を自分たちはここで行っている」という誇りと意志をもって捉えているように思う。

- 穏かな誇りに満ちた、若き仲間たちの横顔。これは時代の「揺り戻し」ではなく「親の代・先祖の代からずっと願ってきた日常の幸せ」がようやく実現し易くなってきたとも言える。これは「喜ぶべき」ことなのでは？日本は確実に「前に進んでいる」のでは？？

- 9月の「平戸スタディツアー」についての紹介など
- 参加者の皆さんの感想・質問・気付きなどがあれば（質疑応答の時間？）

ふるさと総合

聞きたい　言いたい

人材養成し異文化に橋を

国際教育事業コーディネーター

小関　哲さん（28）

〈米国の非営利国際教育組織「ピープル・トゥ・ピープル（PTP）財団」が昨夏、国際親善のため、世界四十八コースに約二万七千人の学生を派遣した「学生大使プログラム」。本県は北松小値賀町や平戸市のホームステイを中心に約三百八十人を受け入れ、参加者アンケートで「世界一」の評価を獲得した。誘致や企画、受け入れまで中心的役割を果たした〝立役者〟に話を聞いた〉

―米国の若者に「世界一」の評価を受けた。

非常にうれしい。甲子園に初出場し、初優勝するような出来事では。

―成功した理由は。

三つある。本県の自然や歴史など素晴らしい素材。二つ目は小値賀町などの地域に人を呼び込む受け入れ態勢や人材があった。三つ目は県や民間による支援が機能した。人との触れ合いは重要。人が触れ合い、心が通う仕掛けが優れていた。

―五泊六日のプログラムには、長崎市内で被爆者の体験を聞く平和学習を盛り込んであった。

学生たちは、ホームステイで人と人との心の触れ合いをし、長崎市を訪れて被爆体験講話を聞く。米国の原爆投下を正当化するようなレベルを超え、心の底から涙を流す。こうした交流を積み重ねないと平和はない。

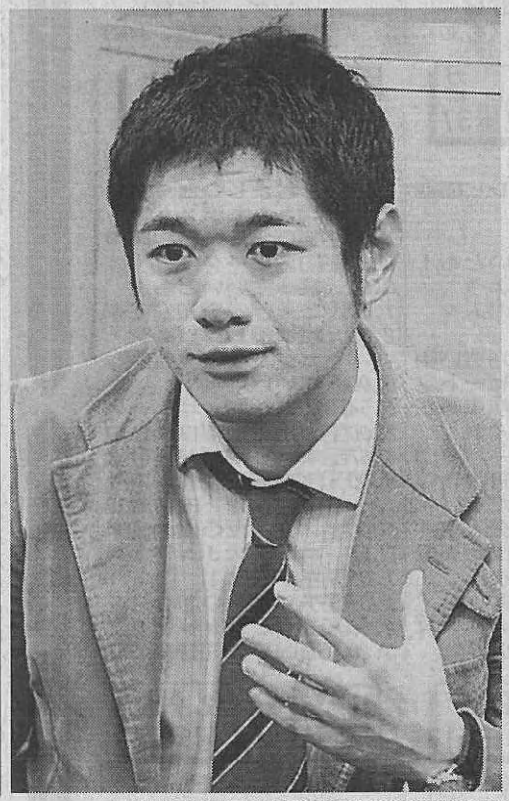
―「世界一」の実績で米国から何千人、何万人も本県へ連れてくることができると強調する。

留学した私や、今回の受け入れで活躍した国際経験がある若手スタッフには、米国人学生と完ぺきに交流できる英語力や国際センスがある。親友や友人と話すような深い交流ができる。地元の学生ら、若い人材を養成すれば異文化に大きな橋を懸けることができる。長崎人には世界と堂々と交流できる能力がある。

―PTPの継続的な受け入れ態勢充実についても、県や関係各団体が一体となり動きだした。

「世界一」というバルーンを揚げられたことで、ある意味、自分の手を離れた。「最初は受け入れは難しいのではないか」と思っていた人たちに化学反応が始まっている。県内ではそれぞれ頑張っていた人がいて、自分は海外と日本だけでなく地域の人と人がつながるように動いてきた。ネットワークをつくることができたのが、無形の財産であり、大変な喜び。

（聞き手は報道部・吉岡俊治）



おせき・さとし　平戸市出身。国際学校United World College英国校、京大法学部卒。カナダで野外活動指導者のトレーニングを受け、独立。2004年から国際交流、体験教育企画のコーディネートを仕事としている。

シニア自然大学校「地球環境『自然学』」× ナガサキアイランズスクール（小さな世界学校）

特別講座（自然観察会）in 平戸 2016年 9月

「「21世紀の人間と自然」を考える ― 離島に「先端」を見る若き「継承者」たちの試み」

＊以下は現在計画中のドラフト案です。詳細は当日の天候ほか主催者・参加者・訪問先の事情等に応じ適宜修正・変更されます。

Day 1 Arrival to Hirado / ようこそ小さな島の「総合大学」へ

9/12 (月)
- 10:30？ 各地より平戸へ（福岡～平戸間は都市高速・西九道・伊万里湾大橋経由で約120分）
- 13:00？ バス平戸到着、平戸瀬戸に面した「平戸瀬戸市場」レストランにて昼食
- 午後 平戸島を概観できる高台経由で島の最も美しい海岸（根獅子浜）へ移動
  - 【現地講師訪問】平戸島への若手Iターン者の代表的存在である今井弥彦氏の塩炊き工房を訪問（依頼中）
  - ＊今井弥彦氏のご活動については参考記事を参照
- 夕方 平戸城下町へ戻り、平戸瀬戸を眼下に望むホテル（旅館）へチェックイン
  - ＊この日の夕食は旅館で？
- 夜 旅館にて就寝

Day 2 Locate your home in the world map / 『世界地図』と『狩猟者用地図』、ふたつの視点で見つめるこの島

9/13 (火)
- 朝 旅館にて朝食・希望者はお散歩など（徒歩圏内に松浦家の美しい菩提寺などがあります）
- 9:00 「世界史体感ウォーク」…「ローカルの中のグローバル」を感じる散歩道
  - ＊アダムス墓碑～ザビエル碑～崎方展望台～松浦史料博物館
  - ＊日本最西端に位置する「島」という自然条件について。「渡り鳥と人間に共通の視点」で見る平戸。
  - ＊平戸城下町にてお昼休み・昼食・小散策（市内の飲食店を紹介）
- 午後 【現地講師訪問】イノシシ猟師・ジビエ料理人としてUターンした30代の仕事場を訪問（依頼中）
  - ＊大阪・ヨーロッパで文化人類学を学んだ若者が自給自足の「猟師兼料理人」の道を選ぶまで
- 夕方 ＊海辺の牧場レストランにて、夕暮れの千里ヶ浜を眺めながらディナー
- 夜 旅館にて就寝

Day 3 The world right beneath us /「ローカル」な営みの向こうに見えてくる「グローバル時代」の現在

9/14 (水)
- 朝 旅館にて朝食・希望者はお散歩など（徒歩圏内に松浦家の美しい菩提寺などがあります）
- 午前 平戸島南部へ向け出発
  - 志々伎（しじき）地区に到着、周辺の歴史・自然についてのイントロダクション
  - 地元の方々によるお昼ご飯
- 午後 【現地講師訪問】土地の漁師さんたちの案内で季節の漁および魚の調理方法を体験
  - ＊天候・海の状況が許せば漁船に分乗し漁の現場を見学も
- 夕方 ＊3～4名に一組に分かれて志々伎の一般のお宅にホームステイ。「日本一」のお魚料理！

Day 4 Before returning to your world / ふたたび日本の「中央」へ

9/15 (木)
- 8:00 各家庭にて朝食、集合場所へ
- 午前 志々伎地区を出発、平戸島北部へ（車中にて振り返り）
  - 平戸瀬戸市場周辺にて休憩後、博多駅へ向け出発
- 午後 博多駅より新大阪へ向けて出発

＊ホームステイでは料理・お酒などこちらが恐縮してしまう程のおもてなしを受けてしまうことがよくあります。
その場合に備えてちょっとしたお酒やお菓子のお土産をお持ちすると気が楽かもしれません。

○ 注意事項・お知らせいただきたいこと：

- 参加される方の健康状態について、特に配慮が必要な方（食品アレルギーなど含む）は必ず事前にお知らせください。
- プログラムは「自然体験・田舎での活動が好きな方」「階段や坂道を含む30分前後の徒歩移動・散策などを楽しめる健康状態の方」を想定して準備されています。特別な配慮の必要な方がいらっしゃる場合、どうぞ事前にご相談ください。

■ あると良いかもしれないもの（旅の持ち物）：

- 歩き易い靴とウォーキングや船上活動に適した服装。また、風の強い海上や小雨が降ったときに羽織れるウィンドブレーカーなど。
- 普通のお泊りセット一式（タオル等は各家庭で借りることもできます）。特にお酒好きな方は、亭主の方と酌み交わすためのお酒など？？

○ 受入関係者連絡先（各日程・プログラムの担当スタッフ確定後に記入の上主催者へ共有します）：

① 090-****-****	小関哲 / Satoshi Oseki（受入チーム総責任者・全日程同行）	English available
②		English available
③		日本語のみ
④		英語のみ